

2013年度（平成25年度）活動報告

I. セミナー

テーマ	講師（所属機関）	司会	期日	主催者	共催者
“Citizenship, Political Culture, and the State in Antebellum America”	John L. Brooke (Ohio State University)	遠藤泰生	2013. 5. 28	基盤研究(A)「19世紀前半のアメリカ合衆国における市民編成原理の研究」	CPAS、アメリカ学会
“Forging the Civil War North: Political Crisis, Fugitive Slaves, and Liminal Rupture in Antebellum America, 1850-1854”	同	同	2013. 5. 29	同	同
“New Approaches to the Study of Conservatism in Modern America”	David Farber (Temple University)	久保文明	2013. 5. 31	アメリカ政治研究会	基盤研究(B)「米国民党再編成とイデオロギー的分極化及び超党派主義—予備選挙に着目して」、CPAS
“Columbia Rising (2010): Thoughts on Public Sphere and the State in the Early American Republic”	John L. Brooke (Ohio State University)	橋川健竜	2013. 6. 2	基盤研究(A)「19世紀前半のアメリカ合衆国における市民編成原理の研究」	CPAS、アメリカ学会
“The Contours of the Holocene: Climate Change and Human Well-Being in Historical Time”	同	遠藤泰生	2013. 6. 4	基盤研究(A)「19世紀前半のアメリカ合衆国における市民編成原理の研究」	グローバル共生プログラム (GHP)
“Hamlet, U.S.A.: The Call of Stories in Writing History”	Bryant Simon (Temple University)	矢口祐人	2013. 6. 11	CPAS	アメリカ学会
「『文明化された』家族の国：アメリカとジェンダー」	高橋裕子 (津田塾大学)	遠藤泰生	2013. 7. 8	CPAS	グローバル共生プログラム (GHP)
“Enlightening Amusements: Hollywood and U.S.-Japanese Relations after World War II”	Hiroshi Kitamura (The College of William and Mary)	矢口祐人	2013. 7. 9	CPAS	アメリカ学会
“Anchor Babies, Kimchi G.I.’s, and Same-Sex Spousal Green Cards: Historical Origins of Contemporary American Immigration Dilemmas”	Edward J. W. Park (Loyola Marymount University)	矢口祐人	2013. 7. 24	CPAS	基盤研究(B)「移民とその故郷：非同化適応戦略とトランスナショナルリズム表象」、基盤研究(A)「19世紀アメリカ合衆国における市民編成原理の研究」
“Did Protestantism Help or Harm the Making of Civil Society in Antebellum America?”	David D. Hall (Harvard University)	遠藤泰生	2013. 11. 18	CPAS	基盤研究(A)「19世紀アメリカ合衆国における市民編成原理の研究」

“Seeing in the City: Broadway and the Culture of Vision in the 19 th Century New York”	David Jaffee (Bard Graduate Center)	遠藤泰生	2013. 12. 2	CPAS	基盤研究 (A)「19世紀アメリカ合衆国における市民編成原理の研究」
“Digital Archives, Databases and Digital Tools: New Ways of Studying Early American History”	同	同	2013. 12. 3	同	同
“The Two-Sided Triangle: America Publishes Australia”	David Carter (The University of Queensland)	同	2014. 1. 28	CPAS	グローバル共生プログラム (GHP)

II. シンポジウム等

・シンポジウム 「アメリカ史研究の現状と課題——日中米の比較と対話」

日時：2013年5月31日（金）15時半～17時半

場所：東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム3

報告：王希（北京大学歴史学特聘教授）

応答：小浜祥子（北海道大学大学院法学研究科准教授）

David Farber（テンプル大学歴史学部教授）

主催：基盤研究 (B)「アメリカ保守主義レジームの成立・展開とグローバル化の関連をめぐる総合的研究」

共催：基盤研究 (B)「近・現代アメリカ論の系譜——学際的・比較論的視点から」、
基盤研究 (A)「19世紀前半のアメリカ合衆国における市民編成原理の研究」

後援：アメリカ学会、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター（CPAS）

・シンポジウム 「それぞれの戦後——アメリカとベトナム」

日時：2013年11月9日（土）13時半～16時半

場所：東京大学駒場キャンパス18号館1階ホール

報告：Michael P. Adas（ニュージャージー州立ラトガーズ大学教授）

“Aftermath of Defeat: The Enduring Costs of the Vietnam War”

古田元夫（東京大学教授）

「現在のベトナムにとってのベトナム戦争と米国」

松岡完（筑波大学教授）

「トラウマはどこへ行った？：米軍ベトナム撤退から40年を経て」

佐原彩子（アメリカ太平洋地域研究センター特任研究員）

「冷戦政策としての人道主義：70年代後半からのアメリカのインドシナ難民救済活動」

司会：西崎文子（東京大学教授）

主催：東京大学グローバル地域研究機構（IAGS）、
東京大学アメリカ太平洋地域研究センター（CPAS）

共催：基盤研究 (B)「近・現代アメリカ論の系譜——学際的・比較論的視点から」
東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻

後援：公益財団法人アメリカ研究振興会

Ⅲ. 研究プロジェクト

- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (A)
「19世紀前半のアメリカ合衆国における市民編成原理の研究」(代表：遠藤泰生)
- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (B)
「近・現代アメリカ論の系譜——学際的・比較論的視点から」(代表：西崎文子)
- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (C)
「トマス・ポーノルの18世紀北米体験と『植民地統治論』の形成」(代表：橋川健竜)
- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金・研究スタート支援
「冷戦人道主義：難民救済ロジックとシステムの形成と発展」(代表：佐原彩子)

Ⅳ. 出版活動

- ・ 橋川健竜『農村型事業とアメリカ資本主義の胎動 共和国初期の経済ネットワークと都市近郊』(アメリカ太平洋地域研究叢書・9)(東京大学出版会、2013年)
- ・ 『CPAS Newsletter』Vol. 14, No. 1 (2013年9月)、No. 2 (2014年3月)
- ・ 『アメリカ太平洋研究』第14巻 (2014年3月)

Ⅴ. センター所属教員の2013年1月から12月までの研究活動

遠藤泰生

[その他の執筆]

- ・ エッセイ、「世界銀行の“法、正義と開発”に関するグローバル・フォーラムへの参加」(佐藤安信共著)『教養学部報』553号(2013年1月9日)1頁。
- ・ エッセイ、「能登路雅子先生とアメリカ太平洋地域研究センター」『CPAS Newsletter』vol. 13, n. 2, 3頁。
- ・ エッセイ、「能登路雅子先生をお送りする」『ODYSSEUS』vol. 17, 101-103.
- ・ エッセイ、「本間長世先生を偲ぶ」『教養学部報』554号(2013年2月6日)3頁。
- ・ インタビュー、「レポートで優をとろう——良いレポートを書くために」『東京大学新聞』(2013年5月21日)12頁。
- ・ 講演会報告、「世界を相手に新しい挑戦を——ルース駐日大使米国大使講演」『教養学部報』559号(2013年10月9日)1頁。
- ・ 科研報告、「基盤研究(A) 19世紀前半のアメリカ合衆国における市民編成原理の研究」『CPAS Newsletter』vol. 14, n.1, 10-11頁。

[学会活動等]

- ・ 講演
「アメリカ合衆国における黒人奴隷制度の歴史」長野市民教養講座、ホテルメトロポリタン長野、2013年6月14日。
- ・ コメント
アメリカ学会2013年第47回年次大会／自由論題D「文化と行為」、東京外国語大学、

2013年6月1日。

・司会

「人の移動の研究の新たな展開をめざして—蘭信三著『帝国以後の人の移動』合評会—」主催（基盤研究(A)「人の移動の研究その故郷：非同化適応戦力とトランスナショナルリズム表象」、東京大学駒場 I キャンパス 18 号館ホール、2013 年 12 月 7 日。

・ International Contributing Editor, Journal of American History

西崎文子

[その他の執筆]

- ・(書評)「高田馨里(著)『オープンスカイ・ディプロマシー——アメリカ軍事民間航空外交 1938-1946 年』」、『歴史学研究』902 号(2013 年 2 月)、58-61、64 頁。
- ・「日米関係 まやかしの対等性を超えて」『これからどうする——未来のつくり方』(岩波書店、2013 年)、247-250 頁。
- ・(報告書) 国立国会図書館調査及び立法考査局『総合調査報告書：日米関係をめぐる動向と展望』(2013) 50-52、58、63 頁。
- ・「米国史への招待」『教養学部報』558 号(2013 年 7 月)、2 頁。
- ・「世界を舞台に——若い世代との対話：ジョン・V・ルース駐日米国大使による新入生歓迎講演会」『CPAS ニュースレター』、Vol. 14, No. 1, (2013 年 9 月)、4 頁。

[学会活動等]

・講演

「第二期オバマ政権とアジア——歴史的文脈から考える」日本経済研究センター 会員会社・部長昼食会、公益社団法人日本経済研究センター、2013 年 1 月 15 日。

「アメリカ外交を考える——理念と現実のはざまで」長野市民教養講座、ホテルメトロポリタン長野、2013 年 4 月 12 日。

“US-Japan Relations in the Post Cold War Years — A Historical Perspective” 国際交流基金 日米センター、米国国際関係論専攻大学院生招聘プログラム、国際交流基金、2013 年 8 月 19 日。

・報告

「『ニューカマー』としてのアメリカ合衆国——国際関係史の視点から」東京大学大学院総合文化研究科第 21 回公開シンポジウム「地域とニューカマー 対面・相剋・共生」、東京大学駒場キャンパス 18 号館 1 階ホール、2013 年 6 月 29 日。

・コメント

国立国会図書館調査および立法考査局主催シンポジウム「2012 年アメリカ大統領選挙後の日米関係の展望——アジア太平洋地域における戦略環境の変化」、国立国会図書館、2013 年 2 月 13 日。

一般財団法人経済広報センター主催「米国シンクタンク研究者シンポジウム：米国の行方——10 年後の米国の姿を占う」、経団連会館、2013 年 11 月 1 日。

・組織および司会

アメリカ太平洋地域研究センターシンポジウム「それぞれの戦後——アメリカとベトナム」、東京大学駒場キャンパス 18 号館 1 階ホール、2013 年 11 月 9 日。

・司会

シンポジウムC「『ベトナム』後のアメリカ社会と外交——インドシナ撤退40年」、日本アメリカ史学会第10回年次大会、立命館大学、2013年9月22日。

・運営委員会代表 日本アメリカ史学会（～9月）

古城佳子

[学術論文]

- ・「通商と金融をめぐる外交—グローバル化と多層的経済外交—」大芝亮編『日本の外交 第5巻対外政策課題編』岩波書店、2013年。

[その他の執筆]

- ・「企業の力で『日本』の広報を—ソフトパワーを活用—」日本経済新聞『経済教室』美根慶樹との共同執筆、2013年11月8日付朝刊。
- ・「コメント グローバル化における『パワーシフト』への対応 国際政治学の立場から」日本学術会議『学術の動向』2014年1月号。

[学会活動等]

・報告

「日韓文化交流から見た企業と国際関係—ソフト・パワーの源泉の一考察」キャノングローバル戦略研究所、2013年8月21日。

「TPPをめぐる国内選好の形成」日本国際政治学会2013年度研究大会「理論と方法分科会」新潟市朱鷺メッセ、2013年10月25日。

“More Freehand in Foreign Policy? Abe’s Foreign Policy after a Landslide Victory,” the Conference: Japan is Back: Abe Governance, Abenomics, and Abe Foreign Policy after the Upper House Election, University of British Columbia, 2013年9月19日。

・討論者

日本学術会議シンポジウム「グローバル化における『パワー・シフト』への対応」2013年6月8日。

・司会

部会「新たな経済発展パラダイムの模索と国家の役割」日本国際政治学会2013年度研究大会、新潟市朱鷺メッセ、2013年10月26日。

・評議員 日本国際政治学会

・評議員 国際法学会

・講師 三鷹市民講座（4回分）

橋川健竜

[著書]

- ・『農村型事業とアメリカ資本主義の胎動 共和国初期の経済ネットワークと都市近郊』東京大学出版会、2013年。

[その他の執筆]

- ・項目執筆「ターナー、ナット」「テカムセ」「マーシャル、ジョン」「ブラック・ホーク」「ベーコン、ナサニエル」岩波書店辞典編集部（編）『岩波世界人名事典』岩波書店、2013年。

- ・記事執筆「ネットワークから考える 地域文化研究専攻シンポジウム」『教養学部報』554号(2013年2月6日)、3頁。

[学会活動等]

- ・司会およびコメント
アメリカ学会第47回年次大会初期アメリカ分科会、東京外国語大学、2013年6月2日。
- ・企画および司会
第21回地域文化研究専攻公開シンポジウム『地域とニューカマー 対面・相剋・共生』東京大学、2013年6月29日。
- ・報告
「拙著『農村型事業とアメリカ資本主義の胎動』について 研究動向とコンセプト」初期アメリカ学会第61回例会、上智大学、2013年7月13日。
- ・編集委員 アメリカ学会 *The Japanese Journal of American Studies*.

島貫香代子

[学術論文]

- ・“A Reconsideration of the Color Line: Quentin’s Awareness of Sam Fathers’ Blackness in ‘A Justice’” 日本アメリカ文学会関西支部『関西アメリカ文学』第50号、2013年10月、37-50頁。

[学会活動等]

- ・報告
「“Lion” から “The Bear” へ—Lion と Sam Fathers の関係性」日本英文学会関西支部第8回大会、龍谷大学、2013年12月22日。

佐原彩子

[学術論文]

- ・「日本における『インドシナ難民』概念の問題点」日本移民学会『移民研究年報』第19号、2013年6月、51-67頁。
- ・「想像/創造される『非市民』—近年のアメリカ移民政策における『市民にふさわしくない存在』の『犯罪者』化」拓殖大学海外事情研究所『海外事情』61巻4号、2013年4月、62-80頁。

[学会活動等]

- ・報告
「『サイゴン・カウボーイズ』によるインドシナ難民救済：道義的責任の継続とその意味の変容」日本アメリカ史学会例会「救済の暴力：冷戦期アメリカにおける（不法）移民・難民の事例から」、東京大学駒場キャンパス18号館、2013年7月20日。
「『再会の地』アメリカ：ベトナム難民の再会をめぐる語りとその政治的意味」シンポジウムA「『移民の国』アメリカ合衆国における非自発的移動」日本アメリカ史学会第10回年次大会、立命館大学、2013年9月21日。
「冷戦政策としての人道主義：70年代後半からのアメリカのインドシナ難民救済活動」シンポジウム「それぞれの戦後—アメリカとベトナム」、東京大学駒場キャンパス18号館1階ホール、2013年11月9日。

- ・コメント

「ロサンゼルス“暴動”とコリアン・アメリカン」、アジアとアメリカの帝国を超えて [Part 2] —コリアン・ディアスポラからの問い—、京都大学東京オフィス、2013年10月12日。

- ・組織

国際シンポジウム、アジアとアメリカの帝国を超えて [Part 1] 京都大学東京オフィス、2013年7月29日。

国際シンポジウム、アジアとアメリカの帝国を超えて [Part 2] —コリアン・ディアスポラからの問い—、京都大学東京オフィス、2013年10月12日。

- ・会計 日本アメリカ史学会

グローバル地域研究機構運営委員会（2013年度）

大学院総合文化研究科・教養学部

（機構長・運営委員長）	遠藤泰生	教授
（副研究科長）	伊藤たかね	教授
（言語情報科学専攻）	生越直樹	教授
（言語情報科学専攻）	山田広昭	教授
（超域文化科学専攻）	菅原克也	教授
（超域文化科学専攻）	高田康成	教授
（地域文化研究専攻）	増田一夫	教授
（地域文化研究専攻）	和田毅	准教授
（国際社会科学専攻）	荒巻健二	教授
（国際社会科学専攻）	酒井哲哉	教授
（生命環境科学系）	豊島陽子	教授
（関連基礎科学系）	岡本拓司	准教授
（広域システム科学系）	梶田真	准教授
（機構）	西崎文子	教授
（機構）	古城佳子	教授
（機構）	橋川健竜	准教授
（機構）	石田勇治	教授
（機構）	森井裕一	准教授
（機構）	佐藤安信	教授
（機構）	丸山真人	教授
（機構）	遠藤貢	教授
（機構）	杉田英明	教授
（機構）	古田元夫	教授
（機構）	月脚達彦	教授

大学院法学政治学研究科・法学部

西川洋一	教授
久保文明	教授
飯田敬輔	教授
寺谷広司	教授

大学院人文社会系研究科・文学部

水島司	教授
中村雄祐	准教授
諏訪部浩一	准教授

大学院経済学研究科・経済学部

小野塚知二	教授
-------	----

大学院教育学研究科・教育学部

北村友人	准教授
------	-----

大学院新領域創成科学研究科

中山幹康	教授
柳田辰雄	教授

東洋文化研究所

長澤榮治	教授
佐藤仁	准教授

以上、37名